

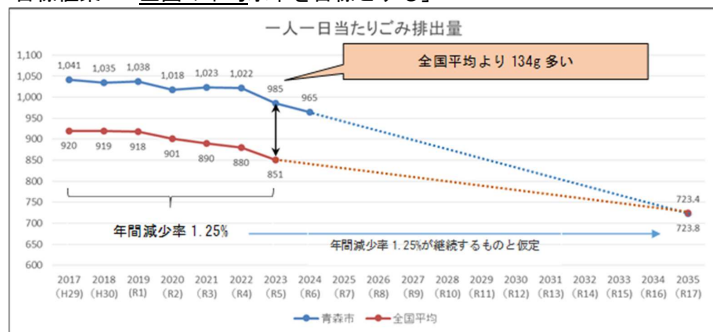
目標値設定の考え方（計画素案 2 4 頁）

1 目標指標の設定について

現行計画では、「ごみ総排出量」と「一人一日当たりごみ排出量」を指標としてきましたが、本計画では、人口動態の影響を大きく受ける「ごみ総排出量」を指標から外し、現行計画との連続性を確保しつつ、減量と資源循環の両面から施策の成果を評価できるように、市総合計画前期基本計画の指標と同じ、「一人一日当たりごみ排出量」と「リサイクル率」を指標として設定することとします。

2 一人一日当たりごみ排出量

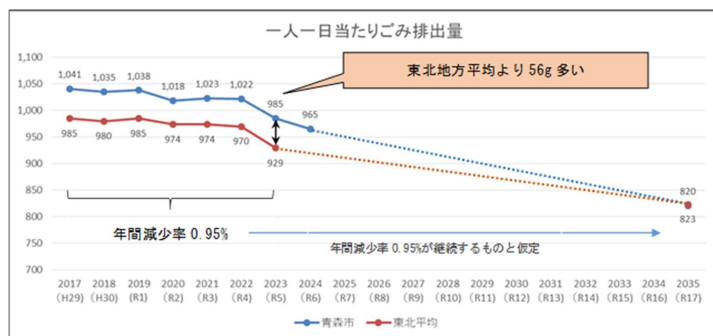
○ 目標値案 1 「全国平均水準を目標とする」



全国平均の水準になることを目標とする案では、計画期間の終期である 2035 年度（令和 17 年度）までに、現状から 25%削減（723g/人・日）する必要があります。

市民・事業者の環境意識の醸成や各種施策の展開により、全ての市民・事業者の行動変容を促進した場合でも、産業構造や地域特性、ライフスタイルの相違などから、計画期間中の達成は容易ではないと見込まれます。

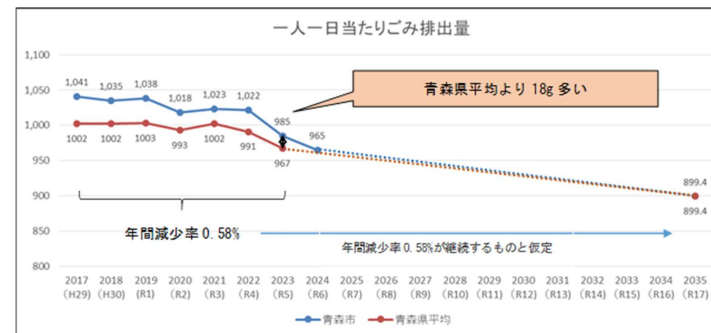
○ 目標値案 2 「東北地方全体の平均水準を目標とする」



東北地方全体の平均水準になることを目標とする案では、計画期間の終期である 2035 年度（令和 17 年度）までに、現状から 15%削減（820g/人・日）する必要があります。

ごみの削減や分別の徹底など、これまでの取組の更なる充実に加え、本市のごみ組成分析において高い割合となっている、食品ロスを含む生ごみや水分の削減に重点的に取り組むことなどによって、計画期間中の達成は可能と見込まれます。

○ 目標値案 3 「青森県の平均水準を目標とする」



青森県の平均水準になることを目標とする案では、計画期間の終期である 2035 年度（令和 17 年度）までに、現状から 6.8%削減（899g/人・日）する必要があります。

現行計画における年間削減率の平均は約 1%程度となっていることから、ごみの削減や分別の徹底など、これまでの取組を継続することにより、計画期間中の達成は容易であると見込まれます。

3 リサイクル率

循環型社会の構築に向けて、新たな計画では、これまでの取組の更なる充実（約 2.5 ポイント増）に加えて、市民・事業者との連携による分別（約 2 ポイント増）、製品プラスチックの分別収集（約 1 ポイント増）などにより、計画期間の終期である 2035 年度（令和 17 年度）までに現状から 5.5 ポイント増の 19.2%を目指します。

《参考》

○ 可燃ごみに含まれる厨芥類と水分の割合（青森市、全国平均）（※東北・青森県の数値が無いので、全国平均との比較）

